



開倫ユネスコ協会
NewsLetter

第118号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915

発行者 林 明夫 2017年10月20日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

関東ブロックユネスコ活動研究会 in 市川

2017年10月14日(土)～15日(日)、山崎製パン総合クリエイションセンターにおいて『関東ブロックユネスコ活動研究会 in 市川』が開催されました。メイン会場では、千葉県内ユネスコ協会の年間活動状況の報告が映像によって行われました。

オープニング・イベントとして、ユネスコ平和芸術家 二村英仁氏によるバイオリン演奏がありました。1998年、二村氏はユネスコから日本人初の「ユネスコ平和芸術家」に任命されました。

続いて「開会式」が執り行われ、千葉県ユネスコ連絡協議会会長のごあいさつ、日本ユネスコ協会連盟鈴木佑司理事長のごあいさつ、来賓のごあいさつなどが行われました。

続いて、「平和をめざす世界遺産・未来遺産」というテーマで基調講演が行われました。講師は、東京大学 西村幸夫教授です。西村教授は、※1日本イコモス国内委員会委員長であり、世界記念物遺跡会議(※2イコモス)の元副会長です。西村教授は、写真やイラストなどをプロジェクターに映して、日本にある世界遺産や未来遺産の維持管理、今後の課題などについて詳しく説明をされました。

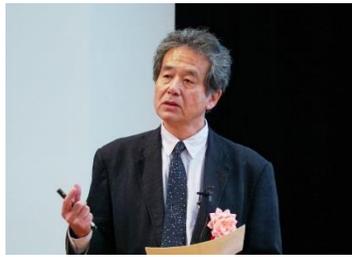
基調講演をお聞きしたあと、5つのテーマで「分科会」が開催されました。それぞれの分科会に分かれて活発な発表や意見交換などが行われました。開倫ユネスコ協会は第2分科会「情報発信・広報・会員増」というテーマで、林明夫会長が発表をさせていただきました。林会長、「ユネスコ世界哲学の日」のイベントや「平和の鐘を鳴らそう運動」、「KAIRINユネスコ杯ドッジボール選手権国際親善大会」などについて話され、また、質問にも丁寧にお応えし、会場は林会長の発表後大きく拍手が包まれました。

日本ユネスコ国内委員会委員 高尾初江(開倫ユネスコ協会事務局長)が報告を致しました。これまでESD(持続可能な開発のための教育)を推進してきた国連ですが、さらにもう一步すすめた目標となる「SDGs」(持続可能な開発目標)の詳しい説明をし、また参加者皆様の記憶にとどめようと『PPAP』で有名なピコ太郎の動画を流しました。17項目ある「SDGs」(持続可能な開発目標)の中からピコ太郎がリズムにのって、面白くて分かりやすい説明をし、会場からも笑いが起こりました。

閉会式では、来年2018年の開催地である茨城県ユネスコ協会の皆様が、大段幕を持ってステージに上がり、ごあいさつをして終了となりました。



開会式の様子



基調講演 西村幸夫教授



分科会の様子



開倫ユネスコ協会 林明夫会長



活発に質疑応答や意見交換する様子



第2分科会で発表する林会長



文部科学省ユネスコ国内委員会委員
開倫ユネスコ協会 高尾初江事務局長

※1 日本イコモス国内委員会・・・日本イコモス国内委員会は、2017年6月現在、約460名の会員によって構成されています。総会の他、年4回の理事会・研究会・来日外国人専門家との懇談会などを開催しています。イコモスの第3回総会(1972年、ブタペスト)で日本国内委員会が承認されました。

※2 イコモス・・・国際記念物遺跡会議 (ICOMOS/ International Council on Monuments and Sites) のことで、文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織 (NGO) です。1964年にユネスコの支援を受けヴェニスで開かれた Second International Congress of Architects and Technicians of Historic Monuments (第2回歴史記念建造物関係建築家技術者国際会議) で、記念物と遺跡の保存と修復に関する国際憲章が採択されました。これを受け1965年にイコモスが設立されました。